

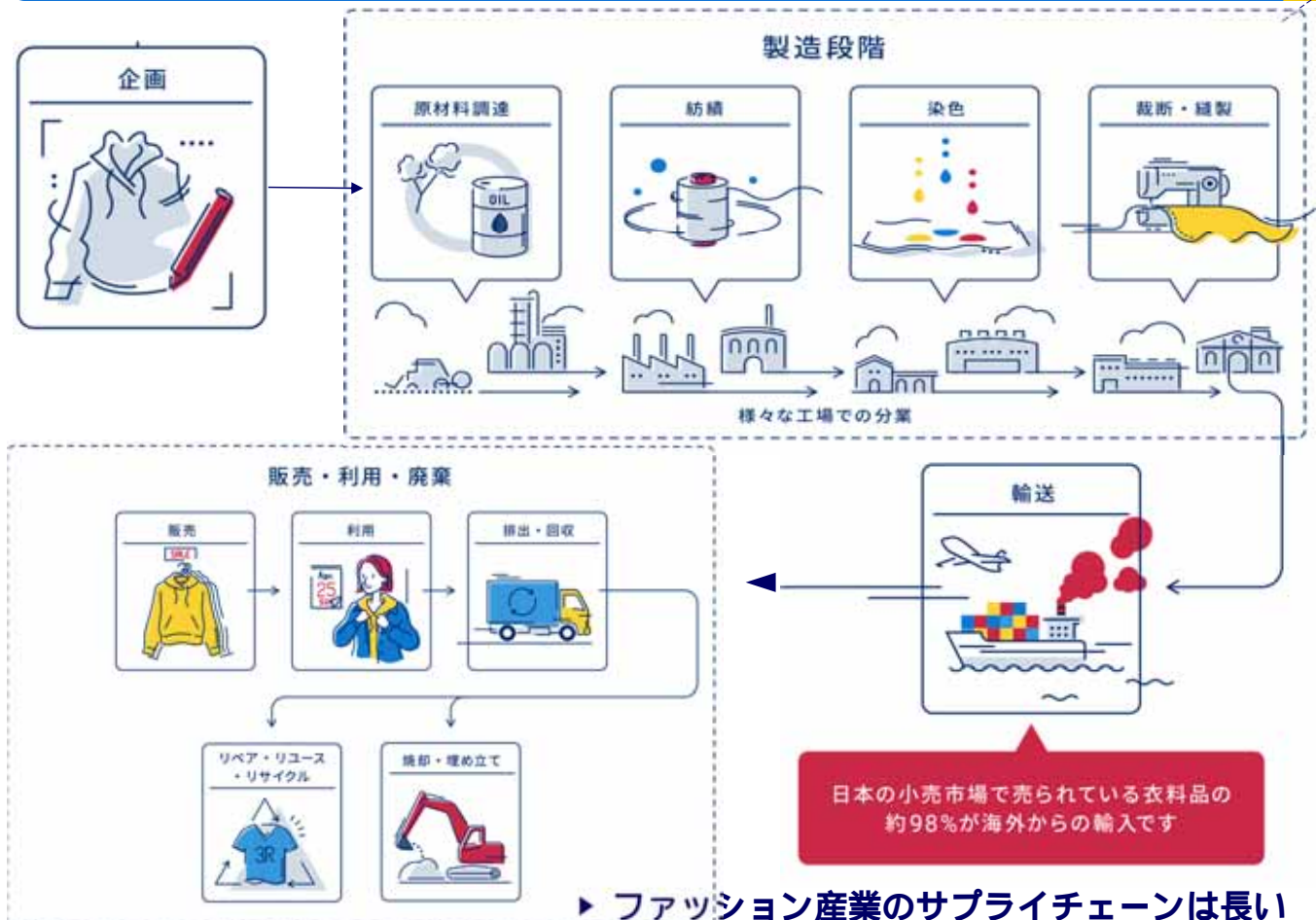


[https://www.env.go.jp/policy/sustainable\\_fashion/](https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/)

## ファッションを持続可能に

環境省「ファッションと環境」タスクフォース リーダー  
岡野 隆宏

## 衣服が作られてから廃棄されるまでの一生



# ファッション産業が環境に与える影響

- 過去15年間で、衣料品の生産は約2倍
- 繊維生産（綿花栽培を含む）は年間約930億立方メートルの水を使用
- 2015年、繊維生産からの温室効果ガス（GHG）排出量は合計12億トンのCO2に相当、すべての国際線と海運を合わせたものを上回る
- 世界の工業用水汚染の20%は、繊維の染色と処理に起因

FIGURE 3: GLOBAL MATERIAL FLOWS FOR CLOTHING IN 2015



- 1 Recycling of clothing into the same or similar quality applications
- 2 Recycling of clothing into other, lower-value applications such as insulation material, wiping cloths, or mattress stuffing
- 3 Includes factory offcuts and overstock liquidation
- 4 Plastic microfibres shed through the washing of all textiles released into the ocean

Source: Circular Fibres Initiative analysis - for details see Appendix B

- 洗濯中に放出された約50万トンのマイクロファイバーが、毎年海洋に流出
- 材料はほとんど埋め立て地に送られるか、焼却され、新しい衣料品にリサイクルされるのは1%未満で、毎年1,000億米ドル以上の材料が失われている
- 衣類の活用不足とリサイクルの欠如により、毎年5,000億米ドル以上の価値が失われている

Source : Ellen MacArthur Foundation (2017), A New Textiles Economy: Redesigning fashion's future  
[https://www.ellenmacarthurfoundation.org/assets/downloads/publications/A-New-Textiles-Economy\\_Full-Report.pdf](https://www.ellenmacarthurfoundation.org/assets/downloads/publications/A-New-Textiles-Economy_Full-Report.pdf)

## 求められる生産背景の透明性

### 2013年4月24日「ラナ・プラザの悲劇」

- バングラデシュの首都ダッカ近郊の縫製工場が入った「ラナ・プラザ」が崩落
- 死者1,134人、負傷者2,500人以上

### Fashion Revolution

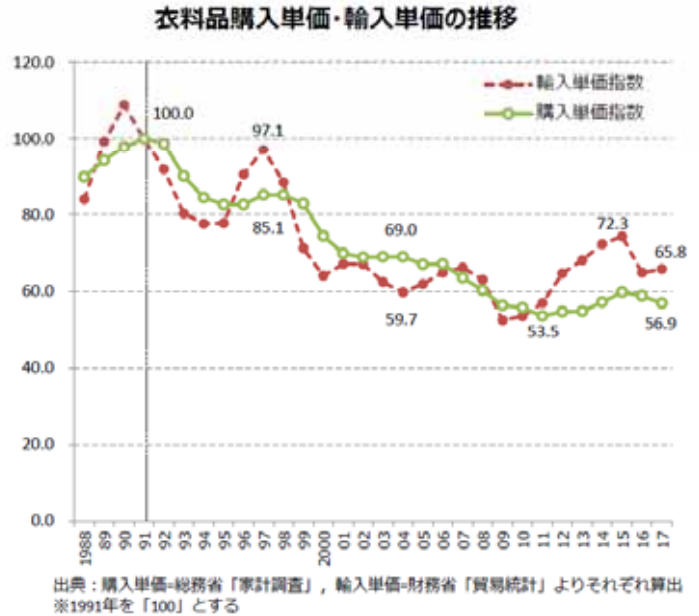
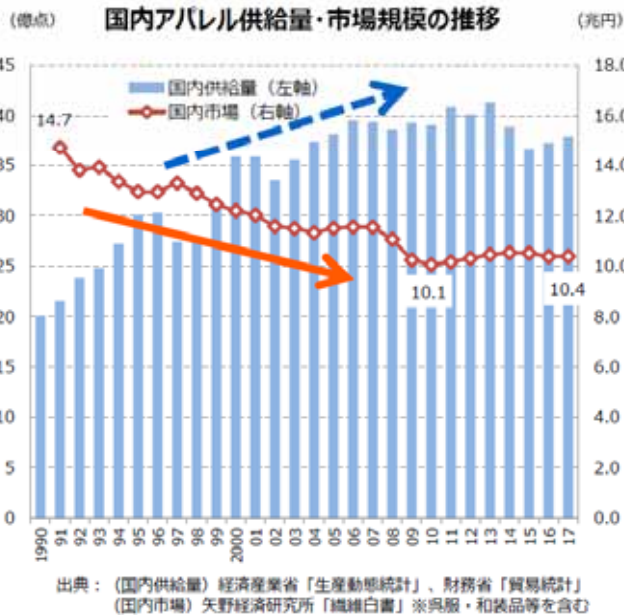
- 衣服の生産背景の透明性を求める動きが活発化



- ✓ <https://www.fashionrevolution.org/about/transparency/>
- ✓ [https://issuu.com/fashionrevolution/docs/ver\\_fr\\_fashiontransparencyindex2020\\_170420](https://issuu.com/fashionrevolution/docs/ver_fr_fashiontransparencyindex2020_170420)

# 我が国のファッション産業

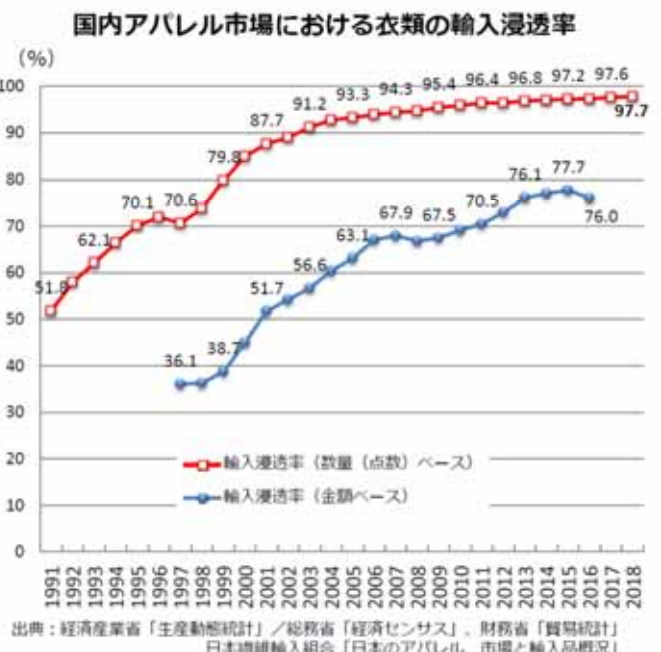
- 国内のアパレル市場規模は、バブル期の約15兆円から10兆円程度に減少する一方、供給量は20億点から40億点程度へと、ほぼ倍増している。
- 衣料品の購入単価および輸入単価は、1991年を基準に6割前後の水準に下落。



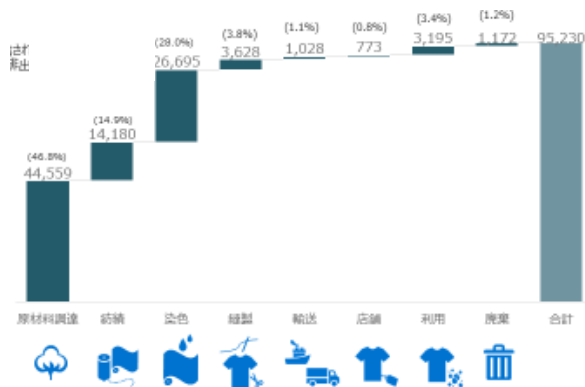
出典：「繊維産業の課題と経済産業省の取組」令和2年1月 17日 経済産業省製造産業局生活製品課

# 我が国のファッション産業

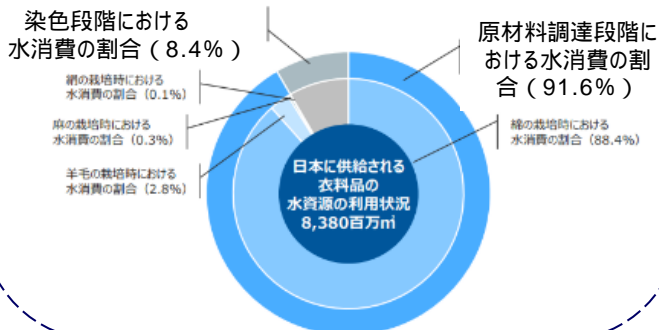
- 国内生産の減少により、国内の繊維事業所数、製造品出荷額とも、1991年比で約1/4 に減少。出荷額については、足下横ばいで推移。
- 国内アパレル市場における輸入浸透率は増加し続けており、2018年には97.7%まで増加。



出典：「繊維産業の課題と経済産業省の取組」令和2年1月 17日 経済産業省製造産業局生活製品課

国内に供給される衣料品のライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出量

## 国内に供給されている衣料品のライフサイクル水消費量

CO<sub>2</sub> 排出量

約90,000kt

## 水消費量

約83億m<sup>3</sup>

※製造段階とは、紡績・染色・裁断・縫製・輸送を指します

## 服1着あたり換算

CO<sub>2</sub> 排出量

約25.5kg

## 水消費量

約2,300ℓ

ペットボトル (500ml)



約255本製造分

浴槽



約11杯分

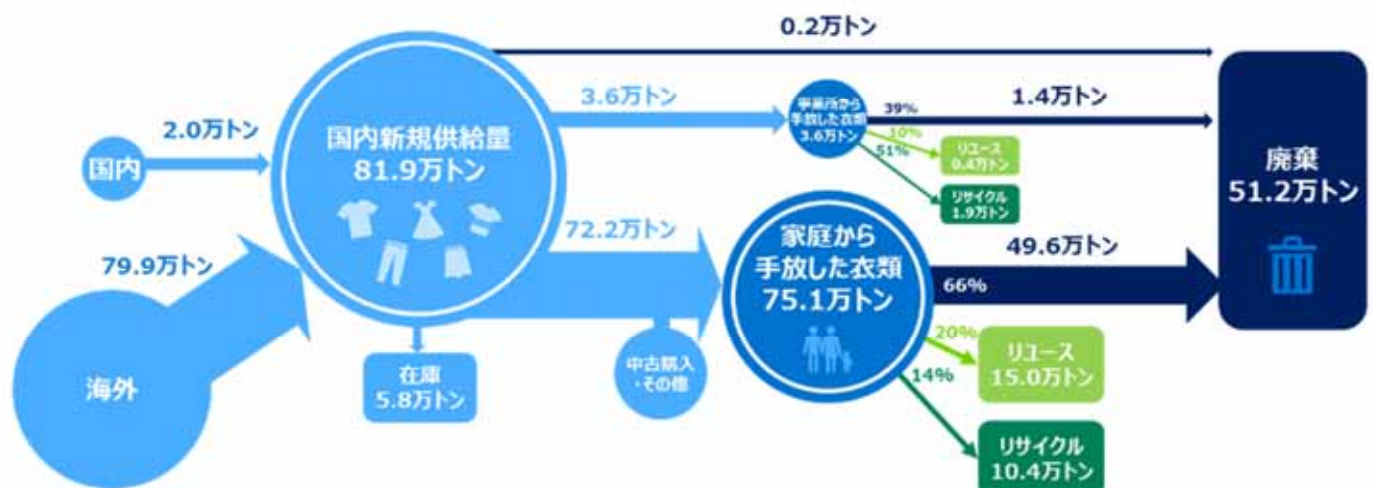
※2019年時点における服の国内供給量約0.51億着をもとに算出しています

## ファッションと環境調査結果

## 衣類のマテリアルフロー サマリー

- 衣類の国内新規供給量は計81.9万トン（2020年）に対し、その約9割に相当する計78.7万トンが事業所及び家庭から使用後に手放されると推計。
- このうち、廃棄される量は計51.0万トン、手放される衣類の64.8%
  - リサイクルされる量は計12.3万トン、手放される衣類の15.6%
  - リユースされる量は計15.4万トン、手放される衣類の19.6%

## 2020年版 衣類のマテリアルフロー



# タンスのこやし

購入枚数

約**18**枚

手放す服

約**12**枚

着用されない服

**25**枚

#SUSTAINABLEFASHION

私たちは1年間に約3着をリペア(修繕)し約12着の服を手放しています。



もしリペアする服を5倍に増やせたら家庭から廃棄される衣服はゼロになるかもしれません。



#SUSTAINABLEFASHION

1年間1回も着られていない服が一人あたり25枚もあります。



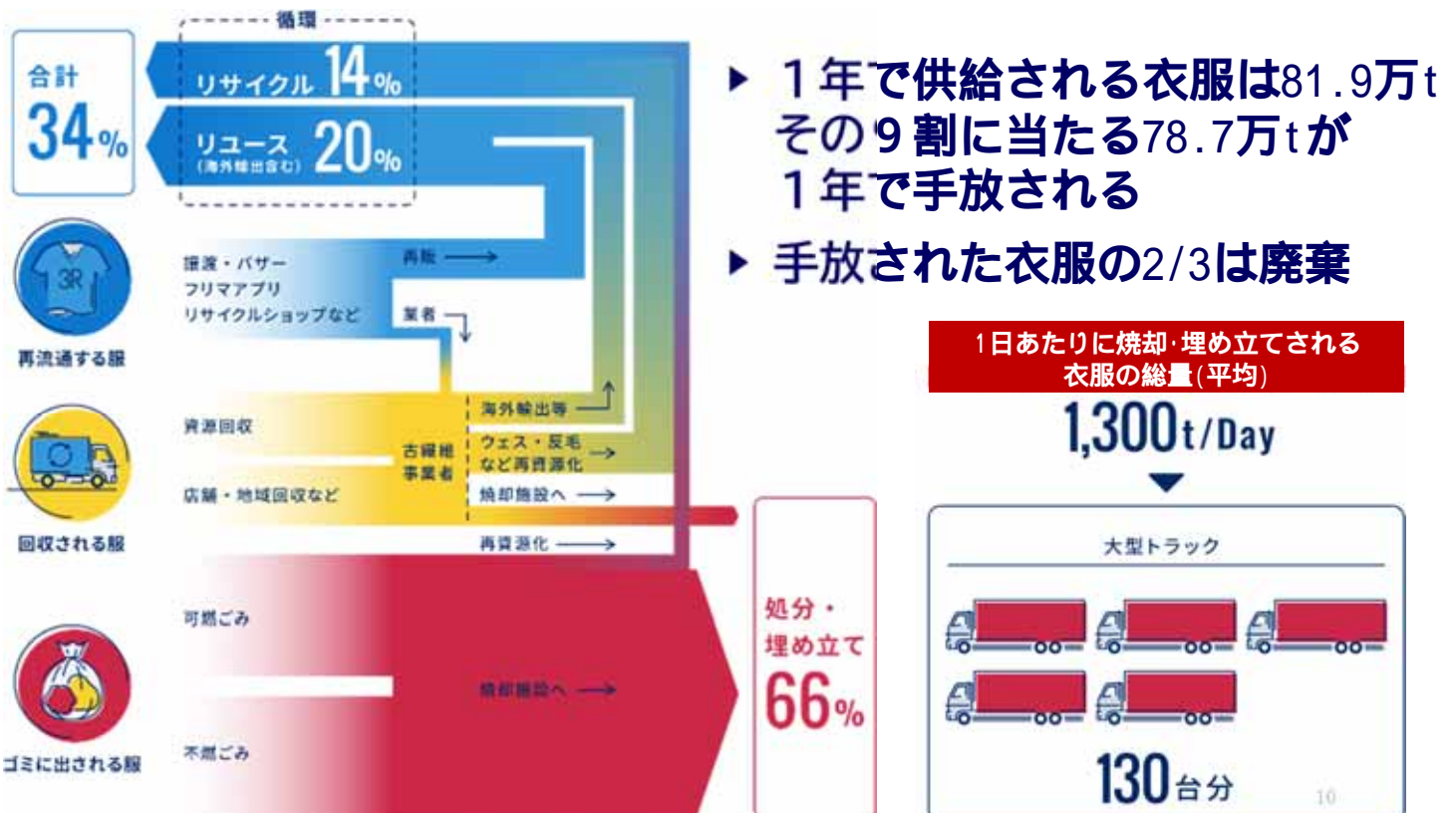
循環型ファッションの推進には家庭にしま込まれている服の活用が課題です。



9

# 手放した後の衣服の行方

家庭から手放した後の衣服のマテリアルフロー



10

# 多くの関心を集めるサステナブルファッション！



継続層	具体的な取り組みを行って6カ月以上である	3%
実行層	具体的な取り組みを行って6カ月未満である	1%
準備層	関心があり、ここ1カ月以内にできることは実行したい	4%
関心層	関心はあるが、日常生活の中で具体的な行動は起こしていない	51%
無関心層	知っているが全く関心はない	41%

衣服の生産から流通、消費、廃棄等における持続可能性を考慮し、地球環境や関わる人・社会に配慮した取組。例えばリサイクル素材やオーガニックコットンなどサステナブルな素材の選択や廃棄物の削減、再利用、再資源化の推進や支持などが含まれ、ここでは「エシカルファッション」や「スローファッション」など類似する概念も内包されることとする。



**59.2%が関心あるが、その9割は行動に移せていない**  
**行動のために求められているのが「情報発信」と回収・リペアなど「仕組みづくり」**

## サステナブルファッションに向けたアクション



生活者



企業



**1 今持っている服を長く大切に着よう**

1着との長いお付き合いをお直しやリペアなど手を加えて愛着倍増へ



長く着られる丁寧な服作り  
リペアで新たな価値、顧客との長い関係づくりを



**2 リユースで楽しもう**

セカンドハンド(古着)で何度でも楽しもう



▶新たな服と出会える選択肢の拡大  
(サブスクリプション、レンタルサービスなど)  
▶リユース市場の活性化  
▶アップサイクルへの挑戦



**3 先のことを考えて買おう**

▶本当に必要か見極めよう  
▶長く着られる品質を選ぼう

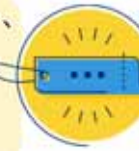


適正な在庫管理  
短サイクル化の見直し



**4 作られ方をしっかり見よう**

衣服の素材や生産ルート、環境影響を確認しよう  
再生素材などサステナブルな素材の商品を見つけ、選ぼう



ライフサイクルの環境影響を、トレーサビリティを確保し把握  
環境認証・ラベルを活用し、分かりやすく伝える



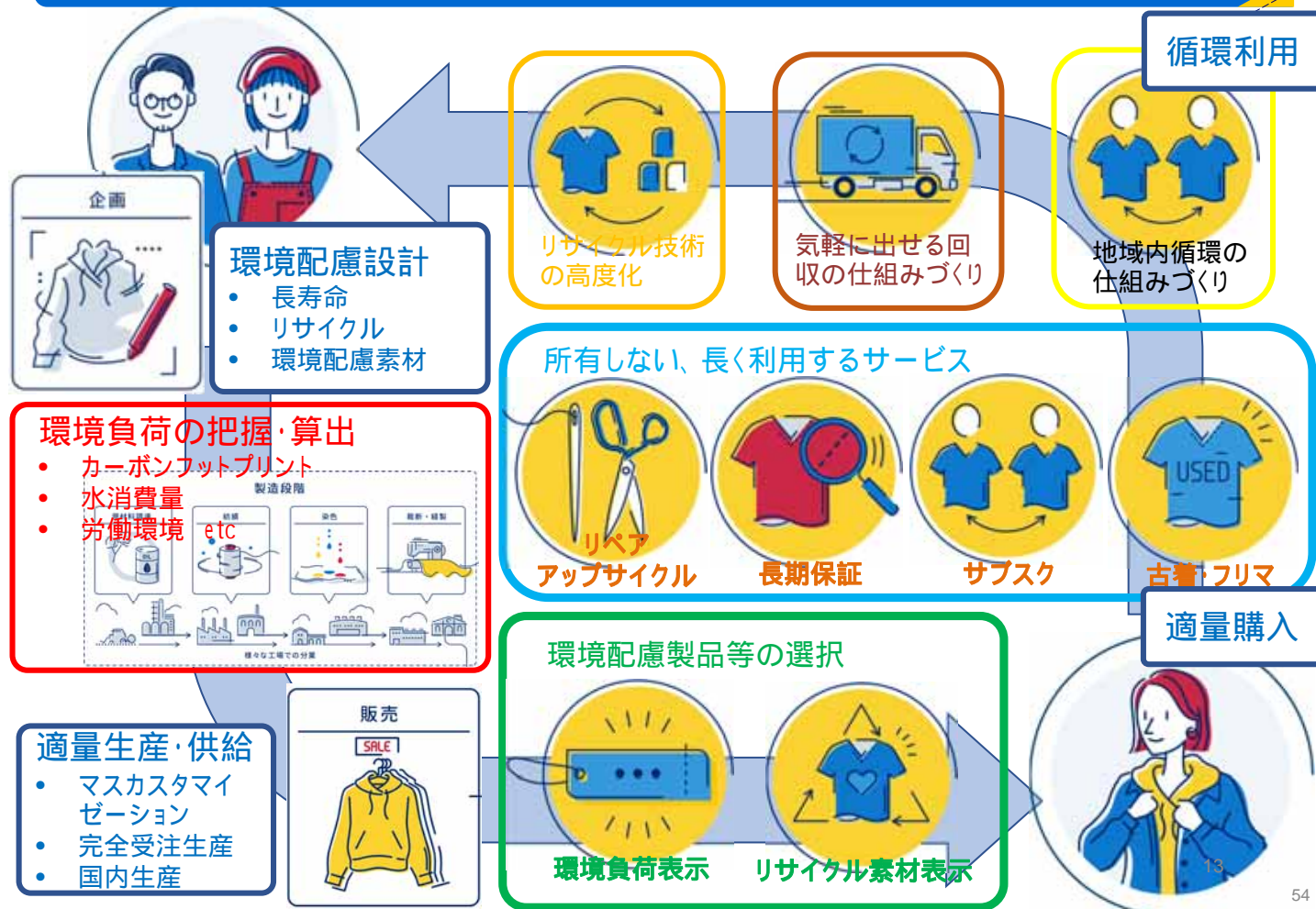
**5 服を資源として再生利用しよう**

古着を店舗に持ち込もう  
古着を資源として回収に出そう



店頭回収の推進  
服から服をつくる循環構築

# サステナブルファッションのイメージ



54

# サステナブルファッションに向けた動き

- ◆ G20環境大臣会合及び気候・エネルギー大臣会合において、循環型ファッションが議論（2021年7月～8月）
  - ワークショップが開催され、コミニユケにも盛り込まれる
- ◆ サステナブルファッションアライアンス（JSFA）の設立
  - 環境省の勉強会をきっかけに2021年8月に11社で設立
  - 2022年10月末現在正会員21社、賛助会員30社
  - 定期的に会議を開催し、知見の共有、協働の取組、生活者との双方向なコミュニケーション、国内外の重要動向の先行把握、業界内の共通課題の改善などのために必要な政策提言を関係省庁に実施
- ◆ サステナブルファッションの推進に向けた関係省庁連携会議
  - 2021年8月20日に消費者庁・経済産業省・環境省で設置
  - JSFAに、パブリックパートナーとして参加



14

